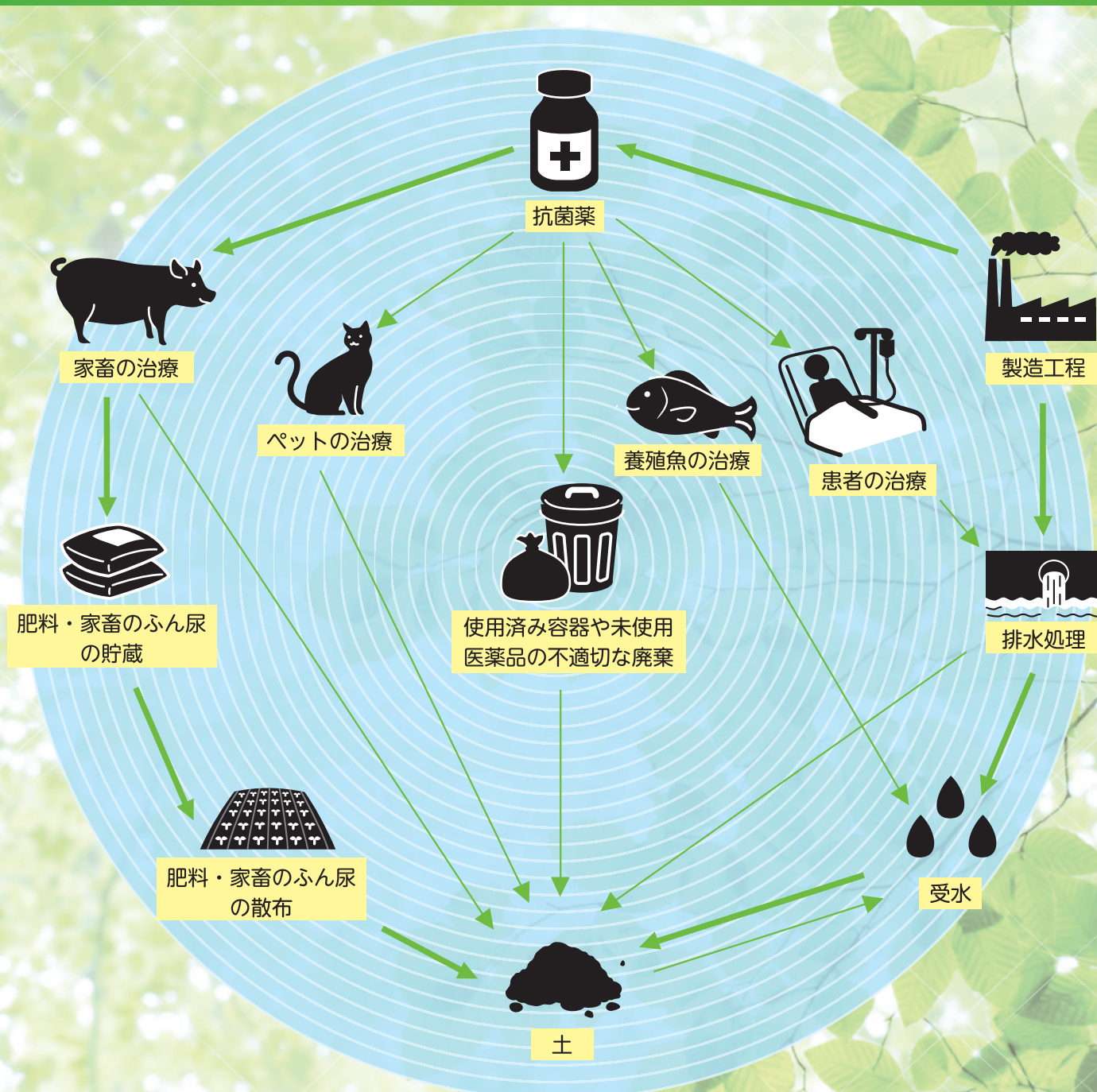


取り組もうワンヘルス、防ごう薬剤耐性(AMR)*

ワンヘルスとは、ヒトだけでなく動物や環境も同じように健康であるためにこれらの衛生管理に関わる人々が、それぞれの分野を超え、連携して薬剤耐性対策に取り組んでいくことです。

* 薬剤耐性 (AMR) : Antimicrobial Resistance 微生物に対して薬が効かなくなることを、「薬剤耐性」と呼びます



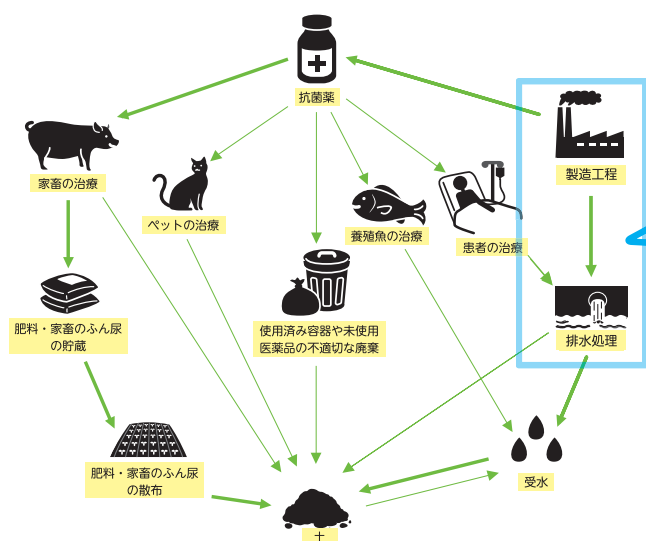
Boxall, Alistair B.A., 'The Environmental Side Effects of Medication', EUROPEAN MOLECULAR BIOLOGY ORGANIZATION REPORTS, VOL. 5, NO. 12, 2004. 一部改変

抗菌薬はヒトだけでなく、畜産業、水産業、農業等、幅広く用いられヒト・動物の排泄物や農業、水産養殖、病院・製薬工場の排水など様々な経路によって環境に影響を及ぼしています。

製薬企業の AMR 対策に係る環境への取組み

我々、日本製薬工業協会（製薬協）加盟企業は、研究所や工場からの排水を含む廃棄物管理について、様々な規制・法令を遵守し活動しています。特に抗菌薬の製造工場からの環境への排出は、耐性菌を生み出す原因のひとつとして考えられているため、製造工場におけるAMR対策に係る取組みも自主的に進めています。

この度、製薬協は、日本製薬団体連合会が国内で初めて実施した、「製造活動における抗菌薬の環境への排出軽減等の取組み」に関するアンケート¹⁾に参画し、抗菌薬製造工場におけるAMR対策に係る取組み状況について確認しました。



アンケート結果

- 抗菌薬・抗結核薬を扱う製薬協加盟企業 30 社のうち 70% の 21 社（105 施設：自社工場 31 施設・原薬等仕入れ先工場 74 施設）が回答しました。
- 回答したすべての企業で、AMR 対策に係る取組みが進められていました。
- アンケートの 4 つの取組み分野の評価は以下の表の通りです。

AMR 対策に係る取組み分野	取組みを実施している施設の割合
a) 廃棄に関する管理システム	87%
b) 排水管理	97%
c) 固形・非水溶性廃棄物管理	82%
d) 排水中の抗菌薬濃度の定量化および基準の明確化	59%



我々、製薬協加盟企業は、AMR 対策の一環として、アンケートを通じて明らかになった課題²⁾に対し、より一層取組んでまいります。

- 1) 日本製薬団体連合会に加盟する製薬企業のうち、抗菌薬、抗結核薬を扱う企業 61 社を対象とし、2020 年 8～9 月に実施された。製造工場における抗菌薬の環境への排出軽減等、AMR 対策に係る取組みについて現状を把握する目的で、AMR Industry Alliance が発行した「抗菌薬の排出を管理するための手引き（Common Antibiotic Manufacturing Framework）」に基づき、自社および抗菌薬の原薬等仕入れ先の製造工場毎に 4 分野・全 31 項目について自己評価を実施した。
- 2) 発酵による生物由来の廃棄物を肥料などに利用する場合、適切性を確認している、スラッジ（工場廃水処理などの過程で生じる汚泥）を盛り土に使う場合のリスク評価の実施、予測環境中濃度（PEC）と予測無影響濃度（PNEC）による管理など。